

平成30年度

ふるさと学習



～新見庄はどこ？～

新見庄は備中国北部、現在の新見市周辺。新見市西方付近から新見市千屋、神郷町高瀬に広がる大きな荘園だった。平安時代の末期の12世紀後半、最勝光院領として成立。新見の地に荘園が開発された。

新見庄は、その後何度もの変遷を経て、鎌倉時代の末期、後醍醐天皇により京都の東寺(教王護国寺)へ寄進され、以後16世紀の後半に消滅するまで240年間にわたり東寺領荘園として存在した。

～「東寺百合文書」に記載の新見庄～

新見庄は鉄・漆・紙などを産する重要な荘園であり、そのことは平成9年に国宝に指定された「東寺百合文書」(京都府立総合資料館所蔵)に新見庄関係の文書が多数残っており確認することができる。専門家の間では、「古代は飛鳥、中世は新見」といわれる程であった。中世荘園の政(まつりごと)、生活が立証できるだけの文書が国宝「東寺百合文書」の中に2000点以上ふくまれている。「東寺百合文書」とは、「東寺文書」の中核部分を占め、およそ40000通ともいわれており、平成9年にはすべて国の重要文化財に指定されて京都府立総合資料館に収められている。この中に新見庄に関する土地台帳をはじめ当時の新見庄の様子を記した古文書約2000点が残されている。この「百合(ひやくごう)」とは、江戸時代前期に加賀藩五代藩主前田綱紀(まえだつなのり)が、この文書を整理し目録を作成した上で書写させた際に、百桐箱を寄進したことにより名付けられた名称である。

～東寺と新見市のご縁～

当時の備北民報より新見市は、平成3年から平成18年まで「歴史を活かしたまちづくり」の一環として、「備中の国新見庄まつり」を開催した。「東寺百合文書」に「たまがき書状」があり、これは東寺の代官祐清の身の回りを世話した「たまがき」という農村女性が書いたもので、祐清が殺害されたことを悲しんで形見の品を乞うた書状である。この返事を求めてボーイスカウトの発団25周年記念行事として東寺へたまがきハイクを行ったのが、東寺とのご縁をいただいたきっかけとなった。

～新見庄とたたらの始まり～

平成5年に、(社)新見青年会議所(理事長 藤井勲)は創立25周年記念行事として「夢ロマン新見庄づくり・・・、いまたたらがよみがえる」を企画した。国宝「東寺百合文書」の中に年貢として、鉄を納めていたという記録がある。

私たちは、地域に数多く残るたたら跡は知っているが、「たたら製鉄」についても、それぐらいの知識だった。そこで自ら本当の「たたら製鉄」を知りたい、やってみたい気持ちから、先人の知恵、技術、苦勞を知り、市民とともに地域に残る伝統・文化を共有したいと考え、そしてできた鉄で燭台一對を東寺に奉納することを計画に入れた。

実践するために指導していただける人を探していたが、これもご縁かもしれない。島根県仁多郡横田町に日本で唯一のたたら吹き国選定保存技術保持者である木原村下と出

会うことができた。私たちの思いの丈お伝えいたしたところ、一度は断られたが、最後には木原村下は「たたら製鉄」について全く無知な私たちのことを寛大な誠意をもって受けめてくださった。幾度か横田の地を訪ね、新見にもお出でいただき、御指導・御協力の了解を得ることができた。これが、木原村下と私たち新見との繋がりのはじまりだ。

～たまがきとは～



たまがき／たまかき(生没年不詳)である。たまがきの兄は福本盛吉で今までいう警察のような人だ。東寺から派遣された祐清は、寛正3年(1462年)7月に年貢未納の名主、豊岡を追放したことを機に豊岡の親族に殺害される。祐清に好意をもっていたたまがきは現在新見市西方にある善城寺で祐清の葬儀をおこなったあと祐清の職場である東寺へと手紙をおくった。その手紙の内容は、「白小袖・紬の表・布子の三品を形見としてわたしにくれるならどんなにうれしいことでしょう。」とかいてあった。この当時女性が文字をかいたり読むことがとてもめずらしかった。けれども祐清の形見をもらうことは、できなかったのだ。しかしたまがきの書状は東寺百合文書の中に大切に保管されていたのだ。約560年もたったいまこういった紙がのこることは、めずらしいという。また、市立新見美術館に関連資料が展示されておりたまがき書状のレプリカをみることができる。本物を見たい場合は京都府立総合資料館に保管されている。



～たまがき書状(平成9年に国宝に指定)～

新見庄は、幕府方(地頭方)の寺、相国寺の荘園と、領家方の東寺が治める荘園とに分かれていた。名主らが東寺に直務支配を要求し聞き入れられて、1462年、京都から新見庄東寺から祐清(ゆうせい)という僧が新しい代官として新見に派遣された。この時、京都から新見庄に下向した祐清の世話をすることになったのが、領家方の役人福本盛吉を兄に持ったたまがきであった。

翌年の8月、祐清は二人の供を連れて税の取り立てのために出かけた。地頭方の領地を通りかかると、新築中の屋敷の中から村人たちが出てきた。

「普請中の家の前を通るときは下馬するのがこの土地の古くからの習いだ」と、言いがかりをつけるといきなり祐清たちに斬(き)りつけ、祐清と供の一人は殺されてしまった。

彼女は祐清亡き後、その遺品を整理すると東寺へ一通の書状をしたためた。そこには形見として、白小袖と紬（つむぎ）の表、そして布子の三品をいただけたらどんなに嬉（うれ）しいかと切々と書かれている。「(略) さてさてゆうせいの御事、かやうに御なりことが、御いたわしさ、なかなか申はかりなく候（中略）このほとなしみ申候ほとに、すこしの物おは、ゆうせいのかたみにも、みまいらせたく候、給候ハ、いかほと御うれしく思まいらせ候（略）」

～三村元範について～

三村元範は、戦国時代から安土桃山時代にかけての武将。三村氏の家臣。備中国樺城主。天文18年（1549年）、三村家親の三男として生まれる。父の死後は、家臣として兄であり当主・元親の補佐にあたった。元親が織田信長と手を結んで毛利輝元から離反すると（備中兵乱）、三村方として樺城に籠城するも毛利氏の小早川隆景に攻められ、衆寡敵せず玉砕した。元範は長刀の達人であり、最期の戦いでも奮戦した。

天正3年正月5日、毛利勢は樺城を取り巻いた。附近の要害五か所に立て籠もっていた三村勢は、地響きをたて押し寄せてくる毛利勢を見て恐れ、松山城へ退却したので、樺城は孤立した。城主の三村元範は、元親の弟で剛勇の名が中国路に聞こえている。立てこもっている城兵は千人余りである。彼は櫓に登り山野を埋める毛利勢を見渡し、士卒に下知した。「この城は、名城じゃけえ、2万ぐらいの人数で取り抱えられるもんでは、ねえぞ。兵糧、水に不足はないし、ひと月も支えてやりゃあいだろう。攻めあぐんで引き揚げよう。」毛利勢を率いる宍戸備前守と中島大炊介が相談のうえ調略を試みることにした。中島大炊介が密使を城中へ忍び込ませ元範の譜代の郎党富屋大炊介、曾禰大蔵、八田主馬らに謀叛をすすめてみた。おそらく誘いに応じることはなかろうと思っていたが、意外にも富屋らは謀叛をするという。富屋らはその夜、闇にまぎれて毛利勢を曲輪うちへ引き入れた。不意の襲撃を受けた元範は、郎党70騎程とともに山頂の本丸から槍先をそろえて現れ、坂道の途中で毛利勢を迎え撃った。元範は槍をふるい荒れ狂っていたが、多勢に無勢で城兵の姿はしだいにまばらとなり、身辺の家来が伊勢掃部入道ほか8騎となってしまったので、彼らとともに石指山へ登り、洞穴にとじこもった。洞穴の前に伊勢掃入道が立ちはだかり、狭い山道で大太刀を振りまわし、最期のはたらきをあらわす。伊勢掃入道が血煙あげ斬り倒されるのを見て、元範は外に出てきた。元範は薙刀の達人で知られている。彼は大薙刀をふるい、宍戸の郎党二人を一瞬に斬りすてた。さらに二人を打ち倒す。鏡のような刃をきらめかせ、足を踏み替え薙刀を左右にふるっていた元範は、喉仏に矢を受け、うつ伏せに倒れた。宍戸の家来東郷平内が、駆け寄って元範の首級をとった。元範の首は、ただちに彼の弟である上田孫次郎実親の居城、鬼ノ身城（総社市山田）へ送られた。実親の兄の首を見れば、恐怖して戦うことなく降伏するであろうとの策略であった。だが実親は激怒した。彼は城下の華光寺の門前で兄の首をうけると、毛利の使者を追い返し、葬礼をおこない戦意をかためた。5月16日、毛利の諸大將は鬼ノ身城を取り巻き陣所をつらねる。小早川隆景は伊世部山城（夕部山城・総社市下原）に入った。毛利元清は木村山城（総社市八代）に入る毛利勢はまず、鬼ノ身城の支城箕腰山砦を攻めると、わずかな兵力の城兵は本城へ逃げこんだ。翌17日、毛利の先手は荒平山城（総社市奏）を包囲した。城主川西右衛門之秀は、三村元親、中島大炊介の双方と血縁がある。大炊介は城中に軍使を送り、将軍に勤仕するように誘おうとしたが、毛利勢の軍兵たちが山麓に火をかけてしまった。強風に煽られた火焰は、山頂へとひろがってゆく。川西之秀は山頂の城から寄せ手にむかい石、巨材を落としか

ける。石を落されると遮蔽物がなければ、登ってゆく寄せ手は甚大な損害を受ける。たちまち数百人の死傷者がでた。之秀は家来に下知した。「いまじゃ、追い崩せ」曲輪の東西の門が開かれ、城兵が槍先をそろえ突撃した。毛利勢はわれがちに逃げ、川へ追い込まれ、数知れず討ちとられた。小早川隆景は中島大炊介に、いま一度調略するように命じた。大炊介は自ら荒平山城へ出向き、之秀にかけあった。之秀は思案の末「儂は幾代にもわたっての三村の親戚じゃけえ、いまさら毛利に味方するわけはいかんのじゃ。しかし、籠城の人数を巻き添えにしてまで、わが意地を立てることもなかろう。城内の者をすべて助命してくれるなら、四国へ退いてもええぞ」隆景は之秀の要望をうけいれた。之秀は彼を慕う郷民たちに見送られ、備前児島から四国へ渡り、讃岐親戚のもとへ退いて行った。

～三村元範はなぜ死んだのか～

もともとは、毛利元就の後ろだてをしていた、元範だったのですが、宿敵、宇喜多秀家と同盟を組んだことから反旗を翻すことになり、それを知った毛利氏が激怒し1575年に備中兵乱が始まりました。

毛利軍3万の元範は、9000の兵で迎え撃ちました。家臣の勧めで元範は、高梁川を下り高尾小学校にある早乙女岩まで逃げました。ですが、敵の兵が攻めてきたので、元範の最後の戦いが始まりました。そこで元範の長刀の達人で、数人を切り伏せたのですが、敵の撃った矢が喉に突き刺さり首を切られたといわれています。

～早乙女岩について～



高尾小学校の校庭に早乙女岩と呼ばれる大きな岩があり、その頃に「樅城主三村元範公戦死之遺跡」と刻まれた碑が立っている。

天正2年(西暦1574年)天下統一を狙う織田信長は、京都に進軍し、追われた足利15代將軍義昭は西に逃走し、中国の雄、毛利、小早川に頼り京都への巻き返しを図った。その年の末頃、備中に宿陣を張って、織田に通じていた三村一党の多くの諸城は、毛利、小早川等の軍によって落城した。そして、その余勢は、名実ともに備北の堅城を誇っていた樅城にも押し寄せ、天正3年(1575年)正月8日、今から約440年前に毛利の大軍に包囲され炎に包まれながら落城した。元範は、備中松山城主三村家親の三男で、父親譲りの戦上手といわれていたが、当時の巳の刻に部下の叛逆者が敵を城内に引き入れ、城に火をかけ、元範も勇士70騎程と、ともに死を決して戦ったのだが、多勢には勝てず、ほとんどの城兵を失った元範は今はいまだと腹かき切ろうとしたところ、老臣伊勢入道にひとまず脱出して再起を図ろうと説き伏せられ10人程の重臣と夜陰に乗じて山を下り、山裾を馬塚から高尾に落ち延び、この早乙女岩に隠れ疲れをいやしたといわれている。

話によると、追い手が部落民に三村元範の行方を訪ねたところ、あの岩だと指さした

ので石指の地名が生まれた。また、その岩には洞があって、一人の少女が、それに潜んでいた元範達に、ひそかに食糧を運んでやったが、そのことを怪しんだ者が訴えたので元範は、討たれた。それで乙女の純情を偲んで早乙女岩と呼ぶようになった。

また櫓城は別名を、新見城といい、現在の新見市上市の矢谷と小谷部落に挟まれた山の頂に、その城跡がある。

～櫓城について～



築城者・築城時期については文献がないために判然としないが、新見氏が築城者といわれている。しかし、永禄年間(1558～1570)頃に三村氏に攻められて新見氏は敗走し、かわって三村元範が城主となって城の拡張・整備を進めるとともに、支城の整備も行った。天正2年(1574)冬から翌3年にかけて毛利・宇喜多連合と三村勢との間で、備中諸城において激戦が展開され、櫓城も天正3年正月に落城し、三村元範も戦死した。

櫓城は、標高420～490mで平地との比高、約200～240mの南北に延びる尾根線上に築かれた連郭式山城で、本丸・二の丸・三の丸からなり、石垣・堀切・井戸跡などの遺構が認められる。現在指定となっている本丸は、このうち最北の標高470～490mの尾根頂部いったいに築かれており、4つの郭で構成されている。北端の郭1は東西幅、約48m・南北幅、20mで、北東端部には人頭大の角礫を積み上げており、西側を武者走りに接している。郭2は郭1の南側にあつて約10m上がり、ほぼ台形を呈している。郭3は本城の主郭にあたり、郭2よりさらに6m高い位置にあり長軸約65mで幅17～36mで北辺・西辺は石組みが見られる。郭4は郭3より8m下がった位置にあり、西縁に武者走りが続くが、西辺下端部には列石が見られる。また、各郭の西辺にある武者走りのほぼ中央に南方向に突出する小郭がある。これらの縄張りについては、三村氏により整備・拡張された際の姿をとどめているものと考えられる。備中北部では備中松山城に次ぐ規模を誇っていた城として貴重な遺跡である。

～馬頭観音について～

奥組のずっと奥にある。見た目は、とても優しそうな顔をしている。いつ建てられたかは不明だけれど平成4年に建て替えられた。毎年お祭りをしている。牛を使って田植えをしたり、草を刈ったりして牛の餌にしていたそうだ。それに牛がいないと農業ができないから、とても大切に育てていた。観音様の顔には、天保15年と書かれていて、上の方には牛と書かれていた。馬頭観音は、牛を守る観音様で、もともとは牛を守るのは牛、馬を守るのは馬と言われていた。観世音菩薩の化身で、六観音の一つ。

○馬頭観音の由来～

観音としては、珍しい憤怒の姿をとるとも言われ、柔和相と憤怒相の二つの相を持つ



が、日本では柔和相の姿はあまり知られていない。憤怒相になっているには理由があり、怒りの激しさによって苦悩や諸悪を粉碎し、馬が草を食べるように煩惱を食べつくして災難を取り除く、といわれている。観音菩薩と名のつく仏には馬頭観音のほかに千手観音や十一面観音などバリエーションがあります。観音菩薩は全ての生物を観察し、その声を聞いて救済する仏様です。

○ご利益

無病息災、動物救済、厄除け、旅行安全のご利益があるとされています。

○頭の馬は煩惱を食べつくす白馬

馬頭観音は頭上に馬頭をいただくスタイルの観音菩薩で、馬はヒンズー教の神様に由来します。ヒンズー教の神様のひとつと仏教の観音菩薩が融合した結果、生み出された仏様といえます。

～国司神社について～

1. 鎮座地

新見市高尾 高尾平

中国自動車道新見インターチェンジ北方旧180号線を越えての山腹に鎮座

2. 祭神

・主祭神 大己貴命(大国主命)

・配祀 田心姫命 大竜彦命 市杵島姫命 他12柱

3. 由緒

創建年月日は不明。岡山県神社誌には古文書によると天正年間(1573～1586)以前であると、寛文年間(1661～1672)領主水谷松山城主が本殿再建、新見藩主関公が社殿を造営し神田引等があったとが、明治6年村社、同42年八幡神社外20柱を合祀。

4. 建造物

○本殿

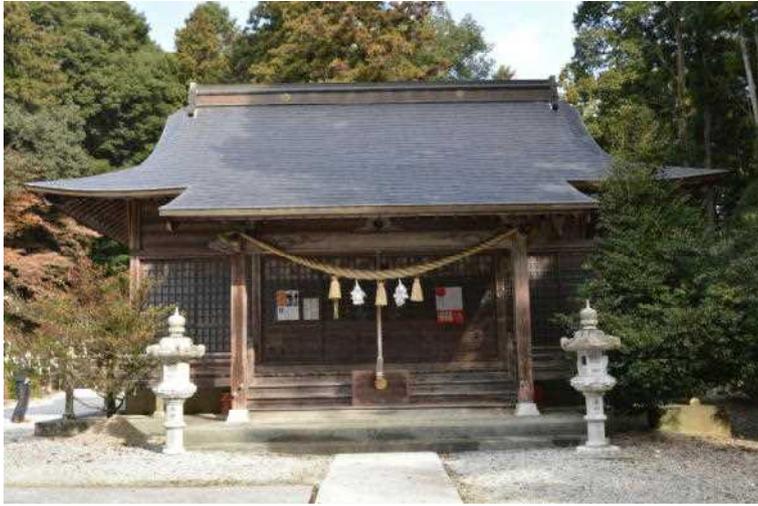
桁行1間(2・45m)梁2間(2・45m)の入母屋造、平入で向拝つき。組物(斗拱)木鼻等の装飾彫刻が美しい。

・大国主命像 拝殿前に祭神大国主命の像が奉獻されている。

国司神社は新見市高尾にあり1571年にできたといわれている。国司神社の由緒は、天正5年社殿の造営をし高尾村氏神国司大明神として崇敬され寛文2年、領主小谷松山主が本殿を再建した。元禄11年に新見城主、関公が社殿を再建したという。

その他に、明治6年村社となり、同42年赤松神社、妙見神社、八幡神社20社を合祀し、昭和21年に神社本庁包括神社となった。

～江原八幡神社記念碑について～



○所在 新見市西方土井江原山

○江原八幡神社由緒

天安2年(858)8月15日に宇佐八幡宮(豊前国一大分県)を西江甚内藤原重次、同喜兵衛重信が郷はら(江原)の平地に社殿を建て観請したという。ついで寛平3年(891)3月15日現在地江原山に一字を再建し奉還、中世において京都東寺領になり新見庄領家方の惣社八幡宮となり、文明元年(1469)9月備中守護細川氏の代官が新見庄内へ入部するのに反対して、現

在の金子地域で勢力のあった庄官金子衝氏らがこの神社の境内に農民を集め、武器をとり、大鐘をついて氣勢をあげ「土一揆」を起した歴史的な舞台となり、新見庄の歴史のなかにあっても大きなかわりをもった。天正年中(1573～1591)榎城主今田上野守社殿を造営し、寛文年中(1661～1672)には備中松山城城主水谷京亮が本殿を修復したが、貞享4年(1687)7月29日炎上消失し、元禄元年9月(1688)松山城主、水谷出羽勝明が再建。これが現在の本殿である。明治42年12月2日、岡山県訓介により、地内無格社7社を合併。

～新見庄、豊岡屋敷の跡～

新見市西方 新見美術館

高さ170cm、巾約107cmの花崗岩の自然石表面に「新見庄、豊岡屋敷の跡」と肉太に大きく刻印し、下部に横50cm、縦30.5cmの銅板をはめこみ細字で豊岡屋敷跡の由緒を刻してある。

新見庄豊岡屋敷跡 此の場所は中世新見庄として京都東寺の荘園であった時代当大田節岡(せちおか)の名主豊岡屋敷跡と伝えられている 寛正正三年(一四六二)旧暦八月東寺直務代官として派遣された祐清は荘内農民たちの期待に反して厳しく年貢を取り立て天災による農作物の大被害を受けた飢饉の年にもかかわらず名主の豊岡を「上意」として成敗した このことは領内はもとより地頭方の名主である節岡の身内の横見谷内の名主からも恨みをかい命をねらわれる結果となる 谷内での祐清殺害事件は新見庄始まって以来の重大事件である その発端は豊岡名主の冷酷な仕打ちからである代官殺害の悲劇とたまがきのロマンを秘めたこの地に横内千原歴代豊岡節岡の名主の霊が眠るものである

平成二年十一月一日 横内正弘識

<ふるさと学習を終えての感想>



T・S

ふるさと学習をして思ったことは、新見の庄はとても難しく奥が深いと思いました。新見に住んでいてこういうことは習っておかないといけないと思いました。歩いて見学したり、車で見学しに行くのが楽しかったです。ふるさと学習の先生（ボランティア）にはお世話になりました。ふるさと学習をしてよかったです。中学校に行っても覚えておきたいです。

K・M

ふるさと学習でたくさんのことを学びました。高尾小学校にある早乙女岩のことも知ることもできたし、家のずっと奥にある馬頭観音のことも知ることができたのでよかったです。早乙女岩のことは、三村元範たちが殺されたということぐらいしか知らなかったの、いろいろなことを聞いてよかったです。馬頭観音は見たことはあったけど、説明を聞いてよく分かりました。ふるさと学習のおかげで新見のことをよく知ることができました。

見たことはあったけど、説明を聞いてよく分かりました。ふるさと学習のおかげで新見のことをよく知ることができました。

H・O

ふるさと新見の学習をして、新見の昔のことも知ることができたし、見たこともない古い物を見ることもできたのでとてもよかったです。古い物が今まで残っていてとてもすごかったです。古い刀のかけらがある所に行ってみて、持ってみたら軽いのかなと思っていましたが、想像していたのと全然違って重かったです。壊れやすいと教えてもらって持ってみたらけっこう曲がっていてこわかったです。国司神社では、中の物は見たことがなくて、入ってみたら奥の方にすごくいい物がありました。

M・Y

ふるさと学習で感動したことが2つあります。1つ目は、すごい昔の物が2019年になってた今でも残っていることです。「たまがき書状」は、まだ私が生まれていない時に書かれていたんだと思うととても感動しました。2つ目は私たちが行った所全て、いろいろな人が協力して今も残っているということです。私は、この2つにととても感動しました。

N・S

ふるさと学習ではいろんなことを知ることができました。田んぼの中に昔の政所の建物があつたということです。今は建物がなく岩がありますが、初めてあんな所に建物があつたんだと知りました。そして、山の中に櫟城というお城があつたということを知りました。昔の人は重い荷物を持ってあの急な山道を歩いていたと思うとすごいと思いました。

M・S

ふるさと学習をして新見への大切さがより深まりました。私は、教科書にのっている人や新見の人もごくわずかししか知りませんでした。だけど、この学習でいろいろなことを

調べたり見たりしたので、とても勉強になり新見を大切にしようと思えました。高尾小学校にある早乙女岩を大切にこれからも見守っていきたいです。たまがきについてこの学習で調べてよかったです。

K・T

ふるさと学習で知らないことがたくさんあったけど、いろいろなことを教えてくださり勉強になりました。特に馬頭観音と国司神社のことがよく分かりました。国司神社には大昔からあると分かり、馬頭観音は牛を守る観音さまと分かりとてもよかったです。ほかにもたくさん勉強になったので、このふるさと学習は、すごくいい学習になりました。

N・S

ふるさと学習では、いろんなことが分かりました。田んぼの中に昔の政府の建物があつたということです。今は建物がなくて、岩が置いてありますが、あんな所に建物があつたと知ることができました。また、山の上に櫟城という城があり、昔の人は重い荷物を持って急な山道を歩いていたかと思うとすごいと思いました。

R・K

ふるさと学習でとても多くのことを学びました。その中で特に印象に残っていることが3つあります。1つめは早乙女岩です。高尾小学校にあるけどどうして早乙女岩と呼ばれるようになったのか、早乙女岩の歴史を知らなかったので勉強になりました。2つめは、馬頭観音です。奥組にあるとは知らなかったのでびっくりしました。馬頭観音はだいぶ昔に建てられていて歴史を感じました。3つめは、櫟城です。みんなで櫟城に登って楽しかったです。ふるさと学習のおかげで新見のことを知ることができました。

K・M

ふるさと学習でたくさんのことを学びました。私の小学校にある早乙女岩のことを知ることができたし、家のずっと奥にある馬頭観音のことも知ることができたのでよかったです。早乙女岩のことは三村元範たちが殺されたということぐらいしか知らなかったのので、いろいろ話を聞くことができてよかったです。馬頭観音は見たことはあったけど、説明を聞いてもっと馬頭観音のことがわかりました。そして、私はたまがきと祐清のことについて調べました。ふるさと学習のおかげで新見のことがよくわかりました。



S・U

ぼくはふるさと学習をしてみて、いろいろなことを知ることができたのでよかったです。新見は戦いがおきたり、伝統的なものがあるってすごいなあと思いました。櫟城に登る時は疲れたけど櫟城のことがよくわかりました。中学校に行っても覚えておきたいです。

<参考文献>

新見・高梁・真庭の歴史 太田健一監修 郷土出版社

新見市の文化財 新見市教育委員会

新見阿哲の記録第五集 渡辺毅

続新見阿哲の記録 渡辺毅

郷土の人物 新見阿哲中学校社会科研究会 1991

新見庄検定公式テキスト『ふるさと新見庄』新見庄ロマンの里づくり実行委員会 編集

三村元範 Wikipedia

たまがき Wikipedia

備中国新見庄「たたら」 net-sealion.com/tatara/niiminoshou.html